

書き言葉と話し言葉における外来語語末長音のゆれ

小 椋 秀 樹

一 はじめに

日本語の表記のゆれの中でも外来語の表記のゆれは、報道機関における表記の基準作成などと関わって問題となることが多い。しかし、現代の日本語において外来語表記にどのようなゆれが見られるのかという実態については十分明らかにされているとは言い難い状況にある。このような問題意識の下、小椋(二〇一三、二〇一四、二〇一五)では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCWJ)を資料として、外来語表記のゆれの実態調査を行った。

外来語表記のゆれについては、宮島・高木(一九七四：一)に、

- (1) 「インキ」インク」「ピアノ」ピヤノ」「タイプライター」タイプライタ」の一方をかく人が、実際そのとおり発音

しているとはいえないだろう。しかし、これらの表記にゆれがみられる背景には発音があるはずであって、発音の慣用が一定しさえすれば、「ピンク」「メキシコ」の表記が一定しているように、「インキ」インク」「テキスト」テキスト」のゆれもなくなるだろう。

とあるように発音のゆれとの関連が指摘されている。また、佐竹(一九八六：四一六)には、外来語の長音の表記のゆれをめぐって「その語をどのように発音しているかという発音・語形が大きいかかわってくる」という指摘がある。

このような指摘を踏まえると、外来語表記のゆれを表記の問題としてのみ扱うのではなく、外来語の発音のゆれという観点も加えて多角的に調査、検討していく必要がある。また、そもそも外来語表記のゆれと発音のゆれとの間にどの程度関連があるのかについて明らかにしていくことも必要である。

そこで本稿では、外来語語末長音を対象に、BCWJと『日本

「話し言葉コーパス」(以下、CSJ)とを用いて外来語語末長音の表記と発音のゆれの実態調査を行い、外来語語末長音の表記と発音との関係について明らかにする。

以下、二節で調査資料とするコーパス(レジスター)、調査対象とする語の範囲について述べる。三節で調査結果を報告し、四節でその結果を基に外来語語末長音における表記と発音との関係について考察を加える。最後に五節で本稿をまとめる。

なお本稿では、語の表記を示す際には「フィルター」「フィルタ」のようにかぎ括弧を付けて示し、語を示す際には《フィルター》のように長音符号を用いた表記に二重山括弧を付けて示す。

二 調査資料・調査対象

二・一 調査資料

本稿では、外来語語末長音の表記のゆれを調査する資料として BCCWJ を、同じく発音のゆれを調査する資料として CSJ を用いる。

BCCWJ は複数あるレジスターから成るコーパスであるため、今回の調査においてどのレジスターを調査資料とするかが問題となる。複数あるレジスターから調査資料とするレジスターを選定する際の観点としては、以下の三点が挙げられる。

- (2) ・ CSJ に収録した二〇〇〇年前後の話し言葉と同時期の

書き言葉を収録したレジスターであること。

- ・ 発音のゆれと表記のゆれとの関係を明らかにするといふ目的から、国が定めた外来語の表記の基準である『外来語の表記』(一九九一年、内閣告示第二号、同訓令第一号)に忠実に従おうとするレジスターではなく、表記の選択に関して著者の自由度が高いレジスターであること。

・ 外来語は低頻度語が多いため、調査に十分な用例数を確保することのできる大規模なレジスターであること。

一つ目の観点からは二〇〇一年から二〇〇五年に発行された書き言葉を対象とした出版・書籍、出版・雑誌、出版・新聞の三種のレジスターが候補となる。これら三種のレジスターにおける外来語語末長音の表記の実態については、小椋(二〇一四)において調査を行っており、出版・書籍における語末長音の表記のゆれが二割台で最も高く、表記に関する著者の自由度が高いことを確認している。さらに三種のレジスターの中で延べ語数が最も多いのも出版・書籍である(延べ語数約二八〇〇万語)。以上の理由から、今回の調査では出版・書籍を調査資料とした。

BCCWJ、CSJとも言語単位として長単位と短単位の二種類を採用している。今回の調査では、このうち短単位を用いた。ただし BCCWJ と CSJ とでは、外来語の短単位認定に違いがある。

BCCWJ, CSJ 共に原語で一語に相当するものを最小単位とする点は共通している。しかし BCCWJ ではその最小単位を他の最小単位と結合させずに単独で一短単位とするのに対して、CSJ では他の最小単位一つとの結合までを一短単位としている。例えば、『フリーター』『逆フィルター』は、BCCWJ, CSJ でそれぞれ次のように単位認定される。

- (3) BCCWJ : 一フリーター一 一逆フィルター一
CSJ : 一フリーター一 一逆フィルター一

今回の調査では、CSJ の単位を BCCWJ の基準で修正した上で集計し、分析を行った。

二・二 調査対象

調査対象とする外来語の語末長音の表記については、『外来語の表記』で次のように規定されている。

- (4) 英語の語末 *er, or, ar* などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし、慣用に応じて「ー」を省くことができる。

〔例〕エレベーター キター コンピューター マフラー
エレベータ コンピュータ スリッパ

書き言葉と話し言葉における外来語語末長音のゆれ

長音符号で表記することを原則としているが、長音符号を省く表記を慣用として認めている。

本稿で取り上げる表記のゆれは、『外来語の表記』の規定に閃わる、「コンピューター」「コンピュータ」「セキユリティー」「セキユリテイ」等の語末長音を長音符号で書くか省くかというゆれとした。そのため、「シチュー」「シチュウ」「ルー・ルウ」等の語末長音を長音符号で書くか母音字で書くかというゆれ、「プレー」「プレイ」「ショー」「ショウ」等の長音符号で書くか連母音で書くかというゆれは取り上げなかった。発音のゆれについても、語末を長音として発音するか短音として発音するかというゆれを対象とし、長音で発音するか連母音で発音するかというゆれは取り上げなかった。

BCCWJ (出版・書籍) については短単位データ一・一を対象に『中納言』二・二・二・二、CSJ については短単位データ (CSJ 第四刷) を対象に『ひまわり』一・五・四で語彙素 (CSJ では代表形、代表表記) の語末に長音を持つ外来語を収集した⁵⁾。それぞれの検索条件は、次のとおりである (例として、語末ア段長音の検索条件を示す)。

- (5) BCCWJ の検索条件式
キー : (語彙素 LIKE "% [アカサタナハンヤラフガザダ
ハバヤ] -" AND 語種 = "外")
IN (registerName = "出版・書籍" AND (core = "true" OR

```

core = "false")
WITH OPTIONS {glKugiri = "1" AND glBunkKugiri = "#"}
AND limitToSelfSentence = "1" AND glFixVariable = "2"
AND glWords = "20" AND unit = "1" AND encoding = "
UTF-16LE" AND endOfLine = "CRLF"
CSJ の検索条件
[検索文字列] — [代表形 (短単位)]: [アカサタナハ
ヤラウガザダババヤ] —
[アナルタ] — [代表表記]: [アカサタナハヤラウガザ
ダババヤ] — [で終わる]

```

三 調査結果

三・一 語末母音と表記・発音のゆれ

上記では、BCCWJ (出版・書籍)、CSJ それぞれにおいて、外来語語末長音の表記・発音のゆれがどの程度生じているのかわてく。

BCCWJ (出版・書籍) における外来語語末長音の表記 (長音符号による表記 (長音符号表記) か長音符号を省く表記 (符号無表記) か) の調査結果を表 1 に、CSJ における外来語語末長音の発音 (長音か短音か) の調査結果を表 2 にまとめた。表 1 の「全体」列には BCCWJ (出版・書籍) の長音符号表記、符号無表記の度数と割合とを、表 2 の「全体」列には CSJ の長音、短音の

表 1 外来語語末長音の表記のゆれ (延べ)

| | 全体 | ア段 | イ段 | ウ段 | エ段 | オ段 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 符号 | 80986 | 47509 | 21968 | 6414 | 1953 | 3142 |
| | 83.0% | 83.9% | 74.9% | 99.2% | 98.8% | 99.9% |
| 符号無表記 | 16597 | 9145 | 7373 | 53 | 23 | 3 |
| | 17.0% | 16.1% | 25.1% | 0.8% | 1.2% | 0.1% |
| 計 | 97583 | 56654 | 29341 | 6467 | 1976 | 3145 |

表 2 外来語語末長音の発音のゆれ (延べ)

| | 全体 | ア段 | イ段 | ウ段 | エ段 | オ段 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 長音 | 19578 | 11556 | 5405 | 1533 | 610 | 474 |
| | 92.3% | 90.6% | 93.1% | 99.3% | 98.9% | 98.5% |
| 短音 | 1630 | 1204 | 401 | 11 | 7 | 7 |
| | 7.7% | 9.4% | 6.9% | 0.7% | 1.1% | 1.5% |
| 計 | 21208 | 12760 | 5806 | 1544 | 617 | 481 |

度数と割合とを示した。また表1、表2とも語末母音別の度数、割合も示した。

表1、表2の「全体」列を見ると、BCCWJ（出版・書籍）では長音符号表記が八三・〇％、符号無表記が一七・〇％、CSJでは長音が九二・三％、短音が七・七％となっている。BCCWJでは長音符号表記が、CSJでは長音による発音が定着していることが分かる。

語末母音別に見ると、BCCWJ（出版・書籍）、CSJとも語末の母音によって表記・発音のゆれに違いがある。符号無表記率を見ていくと、BCCWJ（出版・書籍）ではイ段音の符号無表記率が最も高く二五・一％で、ア段音が一六・一％でそれに次ぐのに対し、ウ段音、エ段音、オ段音は一％前後と非常に低い割合となっている^⑥。CSJにおいてもBCCWJ（出版・書籍）と同様の違いがある。ア段音は短音率が最も高く九・四％で、イ段音が六・九％でそれに次ぐのに対し、ウ段音、エ段音、オ段音はやはり一％前後となっている。ただしBCCWJ（出版・書籍）に比べると、短音率の高いア段音、イ段音でもその割合は一〇％以下であり、短音率の低い他の母音との差は小さい。

次に、語末がア段音、イ段音の語を対象として、より細かく語末音別に長音符号表記と符号無表記、長音と短音の割合を調査した。図1、2はBCCWJ（出版・書籍）の、図3、4はCSJの調査結果である。図1、2には度数五〇〇以上の語末音を、図3、4には度数二〇〇以上の語末音を示した。

図1から図4を見ると、語末音によって表記・発音のゆれに違いのあることが分かる。ここでも符号無表記率を見ていくと、BCCWJのア段音（図1）では、「フア」（五九・七％）、「ア」（三三・四％）、「ダ」（二五・七％）、「タ」（三三・七％）の符号無表記率が高い。一方、他の語末音はいずれも一〇％以下である。イ段音（図2）でも同様の傾向が見られる。「テイ」（七八・三％）、「デイ」（七四・五％）では符号無表記率が七割を超えており、「リ」（二三・二％）も二割台である。一方、他の語末音はいずれも五％以下で低い割合となっている。

CSJのア段音（図3）では「ア」の短音率が三八・四％で最も高く、「タ」が一・八％でそれに次ぐ。しかしその他の語末音の短音率は一割を下回っている。イ段音（図4）については、全体的に短音率が低く、最も短音率が高い「リ」でも一〇・九％で、「リ」以外の音は全て一〇％を下回っている。

以上述べたとおり、語末の母音別に見た場合、BCCWJ、CSJのいずれにおいてもア段音、イ段音の符号無表記率、短音率が他の母音よりも高くなっている。更に語末音別に表記・発音の実態を調査した結果、BCCWJ（出版・書籍）では「ア」「タ」「ダ」「フア」「テイ」「デイ」「リ」の符号無表記率が、CSJでは「ア」「タ」「リ」の短音率が他の語末音に比べて高いことが分かった。つまり、語末音によって符号無表記、短音化の生じやすさに偏りが見られるのである。

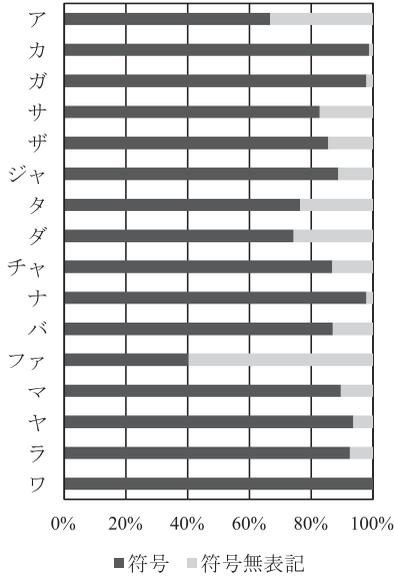


図1 表記のゆれ (ア段音, 語末音別)

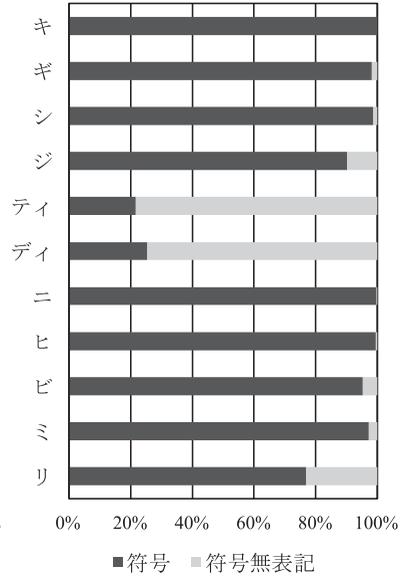


図2 表記のゆれ (イ段音, 語末音別)

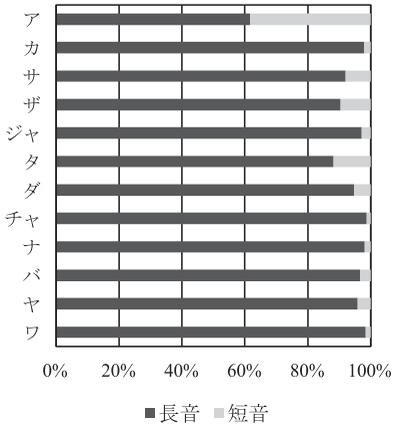


図3 発音のゆれ (ア段音, 語末音別)

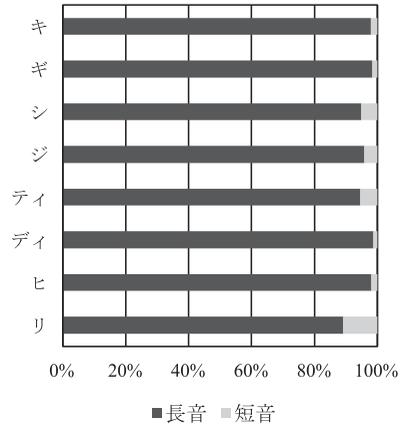


図4 発音のゆれ (イ段音, 語末音別)

三・二 語と表記・発音のゆれ

本節では、どのような語に符号無表記、短音化が生じているの
 が見ていく。ただし、紙幅の関係で、符号無表記率、短音率が三
 〇%以上の語末音を持つ語を対象とする。対象としたのは、
 BCCWJ（出版・書籍）では「ア」「ファ」「ティ」「デイ」の四
 音、CSJでは「ア」の音である。

語末音ごとに符号無表記、短音の度数上位五語を表3から表7
 に挙げた（表4のみ上位四語）。表には各語の度数、符号無表記
 （短音）の度数、符号無表記率（短音率）を示した。また、表の

表3 符号無表記度数上位語（語末「ア」）

| 語彙素 | 度数 | 無表記 度数 | % |
|----------|-----|-----------|--------|
| エアー | 283 | 238 | 84.1% |
| ピアー | 33 | 33 | 100.0% |
| オンエアー | 32 | 26 | 81.3% |
| ビューアー | 30 | 24 | 80.0% |
| ドラッグストアー | 23 | 21 | 91.3% |

※異なり 33, 延べ 1124, 符号無表記 369

表4 符号無表記度数上位語（語末「ファ」）

| 語彙素 | 度数 | 無表記 度数 | % |
|-------|-----|-----------|--------|
| ソファー | 518 | 388 | 74.9% |
| バッファー | 154 | 146 | 94.8% |
| サイファー | 11 | 11 | 100.0% |
| メタファー | 55 | 2 | 3.6% |

※異なり 16, 延べ, 916, 符号無表記 547

表5 符号無表記度数上位語（語末「ティ」）

| 語彙素 | 度数 | 無表記 度数 | % |
|-----------|-----|-----------|-------|
| コミュニティー | 608 | 548 | 90.1% |
| パーティー | 829 | 467 | 56.3% |
| プロパティー | 464 | 456 | 98.3% |
| セキュリティー | 408 | 392 | 96.1% |
| アイデンティティー | 368 | 332 | 90.2% |

※異なり 138, 延べ 5363, 符号無表記 4199

表6 符号無表記度数上位語（語末「デイ」）

| 語彙素 | 度数 | 無表記 度数 | % |
|-------|-----|-----------|-------|
| ボディー | 473 | 431 | 91.1% |
| レディー | 206 | 168 | 81.6% |
| メロディー | 228 | 118 | 51.8% |
| スタディー | 85 | 74 | 87.1% |
| パロディー | 69 | 61 | 88.4% |

※異なり 31, 延べ 1394, 符号無表記 1039

下にはその語末音を持つ語の異なり語数、延べ語数、その延べ語
 数のうち符号無表記（短音）で用いられた数も示した。

まず、BCCWJ（出版・書籍）において語末音「ア」を持つ語
 を示した表3を見ていく。表3の下にあるとおり、語末音「ア」
 を持つ語は異なり三三、延べ一一二四である。延べ一一二四のう
 ち三六九が符号無表記で用いられたものである。この表3から、
 《エアー》の符号無表記の度数が非常に高いことが分かる。《エ
 アー》だけで語末音「ア」の符号無表記の六四・五%を占める。ま
 た表3に挙げた五語で、語末音「ア」の符号無表記の九六・七%

表7 短音度数上位語（語末「ア」）

| 語彙素 | 度数 | 短音度数 | % |
|----------|-----|------|-------|
| ドアー | 160 | 141 | 88.1% |
| クラシファイアー | 37 | 23 | 62.2% |
| バリアー | 22 | 20 | 90.9% |
| アウトドアー | 26 | 18 | 69.2% |
| ストアー | 47 | 18 | 38.3% |

※異なり 35, 延べ 665, 短音 255

を占める。

表4、表6、表7についても、表3と同様の傾向が認められる。表4を見ると、『ソファァ』が語末音「ファ」の符号無表記の六四・五%を占めている。また語末音「ファ」の符号無表記は、表4に挙げた四語のみで生じている。表6では、『ボディー』が語末音「ディ」の符号無表記の四一・五%を占め、表6の五語で語末音「ディ」の符号無表記の八二・〇%を占める。表7では、『ドアァ』が語末音「ア」の短音の五五・三%を占め、表7の五語で語末音「ア」の短音の八六・三%を占める。以上のことから、BCCWJ（出版・書籍）の語末音「ア」「ファ」「ディ」においては、一部の語に符号無表記が生じており、しかもそれらの語の符号無表記の度数や符号無表記率が高いため、これら三つの語末音の符号無表記率が高くなっているといえる。CSJの語末音「ア」についても同様である。

しかし、BCCWJ（出版・書籍）の語末音「テイ」については異なる傾向が見られる。表5の下に示したように、語末音「テ

イ」を持つ語は異なり一三八、延べ五三六三、符号無表記の延べ数は四一九九である。表5に示した語の符号無表記の度数は合計二一九五であるが、全体に占める割合は五二・〇%で、他の語末音に比べると低い割合となっている。

語末音「テイ」を持つ語は異なりで一三八あるが、このうち一八語（八五・五%）で符号無表記が生じている。したがって、語末音「テイ」は他の語末音とは異なり、特定の語に符号無表記が生じているのではなく、語末音「テイ」を持つ広範囲の語に符号無表記が生じている。また表5を見ると、符号無表記の度数が高く、符号無表記率も高い。広範囲の語に符号無表記が生じ、しかも度数、符号無表記率が高いということが語末音「テイ」全体の符号無表記率を上げていると考えられる。これは語の問題というより、「テイ」という語末音の問題としてとらえることができる。

四 表記のゆれと発音のゆれとの関係

本節では、前節までの調査結果を基に外来語語末長音に関する表記のゆれと発音のゆれとの関係について考えてみたい。

まずBCCWJ（出版・書籍）、CSJの調査結果から、外来語語末長音については表記・発音ともにゆれが見られるものの、長音符号による表記、長音による発音が定着していることが確認できる。また語末母音に着目した場合、ウ段音、エ段音、オ段音にゆ

れが少なく、ア段音、イ段音にゆれが多いことも表記と発音とに共通している。

このように、表記と発音とに共通する傾向を指摘することができる一方、両者の間にずれが生じていることも事実である。BCCWJ (出版・書籍) の符号無表記率が CSI の短音率を約一〇%上回っているのである。このずれは、語末ア段音と語末イ段音に見られ、特にイ段音のずれが顕著で、符号無表記率二五・一%に対して短音率六・九%と約一八%の差となっている。また、このずれを生じさせているのは、語末ア段音では語末音「ア」「タ」「ダ」「ファ」の、語末イ段音では語末音「ティ」「デイ」「リ」の無表記率の高さである。

これらの語末音について詳細に見ると、三・二節で述べたとおり語末音「ティ」を除き、一部の語において無表記の度数、符号無表記率が極めて高くなっている。これら一部の語を除くと、表記と発音とのずれは小さくなる。つまり一部の語において発音と無関係に符号無表記が定着しているものの、全体としては表記と発音とは関連を有しているということになる。なお、符号無表記率が高い語(表3、4、6)を見ると、拍数の少ない語、一般語、専門用語があり、現時点では何らかの傾向性を見出すことができない。これらの語において符号無表記が多く生じている要因については、今後の課題としたい。

しかし語末音「ティ」については、三・三節で見たように異なる語数の八五・五%、延べ語数の七八・三%で符号無表記が生じ

ている一方、短音率は約一%にとどまっております、発音とは無関係に符号無表記が定着している。石野(一九九一:四七―四八)では、発音と表記の不一致の例として語末音「ティ」を取り上げ、次のように述べている。

(7) 「レモンティー」は、だれもがこのように発音していると思われるが、これを「レモンテイ」と書く人がいる。同様に「シティー」と発音している人がほとんどと思われるのに、広告などでは「シテイ」を目にすることがはなはだ多い。昔、暗殺された「ケネディ」大統領の名も、大抵の人が語尾を伸ばして発音していたはずだが、マスコミは統一的に「ケネデイ」と書いていた。なぜか世間には、「ティ」や「デイ」の音価を「ティー」「デー」と誤解している人が多いようである。

今回の調査結果は、石野(一九九一)の指摘を支持するものといえる。なお、語末音「ティ」に表記と発音との不一致が生じた要因については、今後の課題としたい。

五 終わりに

本稿では、BCCWJ (出版・書籍) と CSI とを資料として、外来語末長音の表記と発音のゆれの実態調査を行い、さらに外来

語末長音の表記と発音との関係について考察を加えた。

外来語語末長音については、表記・発音ともにゆれが見られるが、長音符号による表記、長音による発音が定着している。ゆれについても、様々な語や語末音に生じているのではなく、特定の語や語末音において高い度数（比率）で符号無表記（短音化）が生じているということが明らかにになった。外来語語末長音の表記と発音とのずれについても、この特定の語や語末音で符号無表記（短音化）が生じていることが要因となっている。

今回の調査では、語末母音、語末音という観点から表記のゆれの実態を見ていった。今後の課題としては、拍数、語構成、語義といった観点から表記のゆれの実態について調査することが挙げられる。

また、語末のウ段音、エ段音、オ段音については、長音符号で書くか省くかという表記のゆれがほとんど見られなかったが、「ルールウ」等の長音符号と母音字による表記とのゆれ、「プレー」・「ショー」・「ショウ」等の長音符号と連母音による表記とのゆれが見られる。後者の長音か連母音かというゆれは、CSJにも見られる。今後、これらの表記・発音も含めて外来語語末長音の表記・発音のゆれを考えていく必要がある。

注

(1) NHKの放送用語委員会では外来語の語末長音や二重母音 [ɔ:] などの表記について議論が行われている。塩田

(二〇〇六)、山下(二〇一二、二〇一五、二〇一六)を参照。

(2) 外来語の表記と発音については、NEHC 放送文化研究所がアンケート調査を行っている。この結果については、石野(一九七四)を参照。

(3) BCCWJ の設計については、山崎、前川(二〇一四)を参照。

(4) BCCWJ の言語単位の概要、単位認定基準については小椋、小磯、富士池ほか(二〇一一)を、CSJ の言語単位の概要、単位認定基準については小椋(二〇〇六)を参照。

(5) 語末長音を持つ一部の外来語において BCCWJ の語彙素と CSJ の代表形・代表表記とで語末長音の表記が異なる場合がある(例: BCCWJ 「ドア」、CSJ 「ドアー」)。CSJ の方が長音符号を付けるものが多い傾向にあるが、このような差異が生じている語は多くないと予想される。差異が生じている語については、符号無表記の語彙素も検索対象に含めるべきであるが、今回の調査では含めていない。今後の課題としたい。

(6) ウ段音、エ段音、オ段音では、長音符号で書くか省くかというゆれはほとんど見られないが、今回調査対象外とした長音符号と母音字による表記とのゆれ、長音符号と連母音による表記とのゆれが見られる。CSJ にも同様の発音のゆれが見られる。

謝辞 本稿は、言語資源活用ワークショップ 2017 (二〇一七年九月六日、国立国語研究所) におけるポスター発表に基づくものです。貴重なコメントを頂いた方々に感謝いたします。なお本研究は、JSPS 科研費 17K02794 の助成を受けました。

参考文献

- 石野博史 (一九七四) 「外来語と視聽者Ⅳ 外来語の表記と発音―識者アンケート結果報告(二)―」、『文研月報』24 (7)、35―48頁
- 石野博史 (一九九二) 「表音と表語―外来語・外国語の発音と表記」、『日本語学』10 (7)、45―52頁
- 小椋秀樹 (二〇〇六) 「第三章 形態論情報」、国立国語研究所『日本語話し言葉コーパスの構築』(国立国語研究所報告124)、133―186頁
- 小椋秀樹 (二〇一三) 「現代日本語における外来語表記のゆれ」、相澤正夫(編)『現代日本語の動態研究』、おうふう、151―171頁
- 小椋秀樹 (二〇一四) 「外来語語末長音の表記のゆれについて」、『論究日本文学』100、195―208頁
- 小椋秀樹 (二〇一五) 「外来語における「e」の表記のゆれ」、『第八回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』、75―82頁

小椋秀樹、小磯花絵、富士池優美、宮内佐夜香、小西光、原裕 (二〇一一) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第四版(上・下)』(国立国語研究所内部報告書 LRCCG-10-05-01, LRCCG-10-05-02)

佐竹秀雄 (一九八六) 「外来語表記法の問題点」、宮地裕編『論集日本語研究(一)現代編』、明治書院、407―422頁

塩田雄大 (二〇〇六) 「外来語の発音とカタカナ表記」、『エイ・ケイ・セイ』などを中心に、『放送研究と調査』56 (3)、74―75頁

宮島達夫、高木翠 (一九七四) 「外来語の表記の変化とゆれ」、『計量国語学』71、1―17頁

山崎誠、前川喜久雄 (二〇一四) 「第1章 コーパスの設計」、前川喜久雄監・山崎誠編『講座日本語のコーパス』2書

き言葉コーパス―設計と構築―、朝倉書店、1―21頁

山下洋子 (二〇一一) 「外来語の発音・表記について」、『we』のカタカナ表記と語末の長音』、『放送研究と調査』62 (12)、74―79頁

山下洋子 (二〇一五) 「外来語の発音・表記について」用語の決定』、『放送研究と調査』65 (5)、86―93頁

山下洋子 (二〇一六) 「用語の決定」、『放送研究と調査』66 (4)、86―95頁

関連 URL

- 国立国語研究所コーパス開発センター編 (二〇一五) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (短単位データ一・一、 『中納言』 二・二・二・二・二) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- 国立国語研究所コーパス開発センター編 (二〇一五) 『日本語話言葉コーパス』 (第四刷) http://pi.ninjal.ac.jp/corpus_center/csj/
- 国立国語研究所コーパス開発センター・全文検索システム『ひまわり』バージョン一・五・四 <http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?%C1%B4%CA%B8%A1%BA%F7%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0%A1%D8%A4%D2%A4%D9%A4%EF%A4%EA%A1%D9>
- 日本工業標準調査会 <https://www.jisc.go.jp/>
- (おへら・ひでぎ 本学教授)